

# 令和3年度 5歳児 「たき火」

(令和3年度実践前修正箇所を斜体、  
実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 11月～12月

## 2. 設定の理由

年長児は、3歳4歳の間に、年長児がたき火をして焼いてくれた焼き芋を届けてもらって食べた経験がある。また、たき火をするまでの1ヶ月程度の間、年長児がたき火の準備をしている様子を3歳、4歳は登降園の途中や遊んでいる時に目にしている。さらに、たき火をしている最中には、興味のある子どものみならず、各クラスの担任と一緒にたき火のそばに来て、たき火を見たり、たき火にあたったりする経験もしている。

このような経験をしてきているため、年長になると自分たちがたき火をして、年少児や年中児に焼き芋を焼いてあげるのだという気持ちをもっている子どもも多い。そのような気持ちがない子どもも、落ち葉を集めてその感触を楽しんだり、園庭の樹木を剪定することで出てきた木の枝を薪にちょうどよい大きさにのこぎりで切りそろえたりすることを遊びの一つとして経験していく中で、落ち葉をどうするのか、切った木をどうするのかなど、自然と話題になり、たき火へと気持ちが向かっていくようになる。

ちょうど、この頃年長の生活の中に、年少児や年中児を招待して開く「お店屋さんごっこ」に向けての取組が始まっている。この取組を通して、年長児は年少児や年中児が喜ぶことをしてあげたいという気持ちもち始めている。気温も低くなり、たき火で暖をとる必然性もできてくる頃、具体的にたき火の話を教師から持ちかけると、子どもたちは年長児としての自覚とたき火への興味から、自分たちがたき火をして焼き芋を焼いてあげることへの意欲をもっている子どもがほとんどである。

このような年長児としての自覚をもち、友達と気持ちを合わせて準備をしたり、自分たちの役割を果たそうとしたりする経験を大切に、さらには自分たちの役割を果たす充実感も感じさせたい。また、たき火という活動から、火や煙に関する体験をすると同時に、それらと安全に関わる上で気をつけなければならないことを考えることもできる。

年長後半のこの時期に必要な経験の積み重ねができるように、できる限り子どもたち一人一人が責任をもって自分たちでたき火をして焼き芋を焼き上げられるような活動にしていきたい。そのためには、子どもたちが大勢でたき火に関わるのではなく、一回のたき火にかかわる子どもの人数をできるだけ少人数にする必要がある。一方で「お店屋さんごっこ」の取組も行っている時期であるため、「お店屋さんごっこ」で同じお店をしている友達によってグループ分けを行うことにする。このことにより、一人一人が責任をもってたき火をするための必要性から少人数にした教師の意図と、「お店屋さんごっこ」の準備ためにグループで生活のリズムを作っている子どもの必要性とをかみ合わせることができる。

また、安全確保と、保護者の子どもの発達や幼児教育への理解を期待して行う「保護者の保育参加」とも関連付け、本活動の意図を十分保護者に伝えた上で、保護者の協力も得て行う取組にしていきたい。

### 3. ねらい

- ① **焚き火をすることを楽しみにしたり、美味しい焼き芋を作りたいと思ったりして準備や当番をしたり、のこぎりで木を切りたいと思って切れるまで粘り強く取り組んだりする。** 自ら決める・選ぶ
- ② 友達と力を合わせてたき火をし、焼き芋を焼き上げたことや、焼き芋を届けた年少・年中の友達、日頃お世話になっている方々に喜んでもらったことに満足感を味わう。 自分に満足する
- ③ たき火当番であることを意識して役割を果たそうとしたり、たき火のことから気持ちが離れて遊具で遊んだり、危険を考えずに火で遊んだりした時には、自分の行動を振り返り、よくないと思うことをやめたりよいと思うことをしようとしたりする。 よりよい自分に向かう  
自分を客観的にとらえる
- ④ 年少・年中の友達や日頃お世話になっている人に焼き芋を届け、喜んでくれる様子を見て嬉しさを味わう。  
~~たき火当番の友達と一緒に、おいしい焼き芋を焼こうという気持ちを持ち、自分ができることをしようとする。~~ 他者という喜びを感じる  
人と協力・共同する
- ⑤ ~~たき火当番の友達と一緒に、おいしい焼き芋を焼こうという気持ちを持ち、~~火に入れる前の芋の準備や火の見張り番など、必要な役割を知ったり考えたり、自分ができることをしようとしたりして、たき火当番と一緒にする友達と声を掛け合いながら、自分たちの責任を果たそうとする。 人とものごとをすすめる
- ⑥ **のこぎりで木を切る時の腕の動かし方や力加減、リズムを考えたり、試したりしてコツを感じる。** 身体を操作する
- ⑦ 薪作りでののこぎりの扱い方（振り回したり、刃が動くそばを手で押さえたりしない）、かまど作りでのレンガの運び方（1個ずつ丁寧に運ぶ）、たき火当日は、防火用の水の準備、火の中への芋、薪、落ち葉の入れ方（火の向きや勢いを確かめて少しずつ入れる）など、どうすると危なくなるかを聞いたり考えたりし、危なくないようにしようとする。 身を守る
- ⑧ 火の暖かさや煙の煙たさ、においなどを感じる。 事物を科学的にとらえる  
現象を科学的にとらえる
- ⑨ 落ち葉や薪が燃える様子や、扇いだら火がよく燃える様子を見て、その変化をとらえて驚いたり、理由を考えたり、試したりする。 食をみつめる
- ⑩ 焦げないように新聞紙やアルミホイルを巻いたり、焼き加減を確かめたりして焼き芋を焼き、焼きあがった焼き芋の香りを楽しんだり、おいしい焼き芋を友達と一緒に食べることを楽しんだりする。
- ⑪ ~~のこぎりで木を切る時のコツを感じたり、~~のこぎりが傷まない**使い方**や置き場所に気をつけて、丁寧に扱ったりする。 道具をあやつる
- ⑫ たき火の準備やたき火、片付けを通して、落ち葉や木の枝が、食べ物を焼いたり、植木や野菜の栄養に使えたりすることを感じる。 資源の活用をみつめる

#### 4. 構造

たき火を楽しみにして準備をする	<b>A【たき火の準備をする】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落ち葉を集める</li> <li>・ 薪を切る</li> <li>・ かまどを作る</li> </ul>
-----------------	---



たき火で責任をもって焼き芋を焼く	<b>B【たき火をする】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バケツに水を入れる</li> <li>・ 新聞紙を濡らしてサツマイモを巻き、さらにアルミホイルでくるむ</li> <li>・ たき火に用意したサツマイモを入れる</li> <li>・ 落ち葉や薪をくべる</li> <li>・ 焼けた焼き芋を年少児や年中児、お世話になっている人に届ける</li> <li>・ 焼き芋を食べる</li> </ul>
------------------	--



たき火の片付けをする	<b>C【たき火の片付けをする】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 灰を畑や植え込みの中に肥料として入れる</li> <li>・ かまどや残った落ち葉を片付ける</li> </ul>
------------	---

#### A【たき火の準備をする】

予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落ち葉を集める</li> <li>・ 薪を切る</li> <li>・ かまどを作る</li> </ul>	<p>○ 焚き火をすることを楽しみに準備をしようとする。①</p> <p>○ たき火の準備を通して、落ち葉や木の枝が、食べ物を焼くことに使えることを感じる。⑫</p> <p>○ 薪作りでのこぎりの扱い方（振り回したり、刃が動くそばを手で押さえない）、かまど作りでのレンガの運び方（1個ずつ丁寧に運ぶ）など、どうすると危なくなるかを聞いたり考えたりし、危なくないよ</p>	<p>* 園庭の落ち葉を集めることを遊びの中で楽しんでできるように、落ち葉をそのままにしておき、子どもが扱える大きさのガンジキを用意しておく。</p> <p>* 薪の準備を遊びの中で楽しんでできるように、子どもが切れる太さの枝を選んで置いておく。また、のこぎりの置き場所を決めて置いておく。</p> <p>◎ たき火をするを楽しみに必要な準備をしようとするように、去年の年長にしてもらったことの話をしたり、今年もしたいと思っていることや楽しみであること、必要な準備があることなどを伝えたりする。</p> <p>◎ 落ち葉や木の枝をたき火に使うことを意識しながら落ち葉を集めたり薪を切ったりしてみようと思えるように、教師がやって見せながら、たき火に使うことを知らせていく。</p> <p>◎ 安全に薪作りができるように、のこぎりの扱い方（振り回したり、刃が動くそばを手で押さえない）を伝え、それらに気をつけて使っているかよく見ておく。</p> <p>◎ かまど作りでレンガを丁寧に運べるように、たくさん持っていて足の上に落としたり、こけて手をはさんだりすると骨が折れるぐらい危険であることを伝え、1個ずつ運んでいるかよく見ておく。</p>

	<p>うにしようとする。</p> <p>⑦</p> <p>○ のこぎりで木を切る時の腕の動かし方や力加減、リズムを考えたり、試したりしてコツを感じる。⑥</p> <p>○ のこぎりが傷まないよう置き場所に気をつけて、丁寧に扱ったりする。⑪</p>	<p>◎ のこぎりで木を切るコツが感じられるように、教師がやって見せたり、必要に応じて手を添えたり、まっすぐ動かすことや、引く時に力を少し入れるが力を入れすぎないことなどを伝え、繰り返し試せるように、1ヶ月程度の期間は準備のための期間として確保しておく。</p> <p>◎ のこぎりが傷まない扱い方ができるように、のこぎりを地面に置くと刃が傷むことを伝え、台の上に置くよう声をかけたり、丁寧に扱おうとしているところをほめたりする。</p>
--	---	---

B【たき火をする】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バケツに水を入れる</li> <li>・ 新聞紙を濡らしてサツマイモを巻き、さらにアルミホイルでくるむ</li> <li>・ たき火に用意したサツマイモを入れる</li> <li>・ 落ち葉や薪をくべる</li> </ul>	<p>○ 焚き火をすることを楽しみにしたり、美味しい焼き芋を作りたいと思ったりして準備や当番をしようとする。①</p> <p>○ 防火用の水の準備をし、燃え移ってもすぐに消せるようにしようとする。⑦</p> <p>○ おいしい焼き芋を友達と一緒に食べることを楽しもうと、焦げないように新聞紙やアルミホイルを巻いたり、焼き加減を確かめたりして焼き芋を焼く。⑩</p> <p>○ たき火当番の友達と一緒に、おいしい焼き芋を焼いてあげようという気持ちを持ち、自分ができることをしようとする。⑤</p> <p>○ 火に入れる前の芋の準備や火の見張り番など、必要な役割を知ったり考えたりし、たき火当番と一緒にする友達</p>	<p>○ 当番になって、たき火をすることを楽しみにしたり、美味しい焼き芋を作りたいと思ったりして準備や当番の役割に向かえるように、当番表を貼っておいたり、楽しみである気持ちに共感したりする。</p> <p>* 防火用の水を自分たちで準備できるように、砂場のバケツをいつもの場所にかけておく。</p> <p>* 防火用の水を準備しようと思えるように、火の粉が飛んで、近くの落ち葉や木の枝に燃え移った時にすぐに火を消すための水が必要であることを伝え、自分たちで水を用意しておくように促す。</p> <p>* 焼き加減を触って確かめられるように、子ども用の軍手を用意しておく。</p> <p>◎ 焼き芋がおいしく焦げずに焼き上がるように、濡らした新聞紙で巻くこと、火が入ることを防ぐために新聞紙が見えないようにアルミホイルでくるみ、木の枝があたってもアルミホイルが破けないようにくるんでかたく握っておくことを知らせる。</p> <p>◎ 自分ができることをしようと思えるように、また、子どもたちが自分たちと一緒にたき火を担当する友達が把握できるように、1回あたりのたき火を担当する子どもの人数を8人程度までにできるように調整する。</p> <p>◎ 自分たちで声を掛け合ってたき火ができるように、火が消えそうになっていることを知らせたり、たき火から気がそれている友達がいることなどを知らせたり、自分から声をかけている姿をほめたりする。</p> <p>◎ 自分たちで責任をもってたき火をしようと思え</p>

<p>・ 焼けた焼き芋を年少児や年中児、お</p>	<p>と声を掛け合いながら、自分たちの責任を果たそうとする。⑤</p> <p>○ たき火当番であることを意識して役割を果たそうとする。②</p> <p>○ たき火のことから気持ちが離れて遊具で遊んだり、危険を考えずに火で遊んだりした時には、自分の行動を振り返り、よくないと思うことをやめたりよいと思うことをしようとする。②</p> <p>○ 火の中への芋、薪、落ち葉の入れ方（火の向きや勢いを確かめて少しずつ入れる）など、どうすると危なくなるかを聞いたり考えたりし、危なくないようにしようとする。⑦</p> <p>○ 火の暖かさや煙の煙たさ、においなどを感じる。⑧</p> <p>○ 落ち葉や薪が燃える様子や、扇いだら火がよく燃える様子を見て、その変化をとらえて驚いたり、理由を考えたり、試したりする。⑦</p> <p>○ うめ組、もも組の友達や日頃お世話になっている人に焼</p>	<p>るように、できるだけ手を出さず、子どもにできることは全て任せる。</p> <p>◎ 自分たちで役割分担したり見通しをもって動いたりできるように、どんなことが必要かたき火の流れや行うことを知らせる。</p> <p>◎ 年長の自分たちがたき火をして焼き芋を焼いてあげるのだという気持ちをもってたき火ができるように、待っているクラスの楽しみにしている気持ちを伝えたり、今から自分たちでたき火をする気持ちを盛り上げたりする。</p> <p>◎ 自分に任されていることをしっかりとしようと思えるように、たき火から気持ちがそれている子どもには周りの友達がどう思っているのかを伝えさせ、何がよくなかったと思うか、どうすべきなのか考えられる機会を作る。</p> <p>◎ 火への接し方が雑な時には、火へのかかわり方を考えられるように危険であることを知らせて止めたり、そのまま続けているとどうなるか考えさせたり、教えたりする。</p> <p>◎ 安全な火のかかわり方や安全に向けた準備に向けて、考えたり実際にやってみようとしたりできるように、危険になると予想されるポイントを抑えて、危険な状況を説明したり、危険な状況にならないようにするための方法を尋ねて考えるきっかけを与えたり、考えたことをやって見せて確かめたり、実際に子どもにさせてみて、よく考えていることをほめたりする。また、安全に向けて考えて動けるように、実際に考えて動いている姿をほめたり、他の子どもに伝えたりする。</p> <p>◎ 火の暖かさや煙の煙たさ、においなどを感じられるように、出来るだけ子ども自身に火に関わらせると共に、子どもが感じたことに共感したり、他の友達にも言葉で伝えたり、聞いたりする。</p> <p>◎ 薪が燃える様子や、扇いだら火がよく燃える様子など、火に関わる様子やその変化に気付いたり、その理由を考えたりできるように、変化に気付いている子どもの気付きを一緒に見て驚いたり、他の子どもに伝えたり、その理由を一緒に考えたり、教師も不思議に思う気持ちを伝えたりする。</p> <p>◎ 人に喜んでもらう嬉しさを感じられるように、他のクラスや日頃お世話になっている人の分も焼いてあげるように呼びかけ、焼きあがった芋を自</p>
---------------------------	---	--

<p>世話になっている人に届ける</p> <p>・焼き芋を食べる</p>	<p>き芋を届け、喜んでくれる様子を見てうれしさを味わう。</p> <p>④</p> <p>○友達と力を合わせてたき火をし、焼き芋を焼き上げたことや、うめ組やもも組の友達に喜んでもらったことに満足感を味わう。②</p> <p>○焼きあがった焼き芋の香りを楽しんだり、おいしい焼き芋を友達と一緒に食べることを楽しんだりする。⑩</p>	<p>分達で届ける場を作る。</p> <p>◎自分達のしたことを人に喜んでもらった満足感が味わえるように、自分達にできることは全てさせ、自分達でたき火をして焼き芋を焼き上げた実感をもたせる。</p> <p>◎焼き芋の香りを楽しめるように、新聞紙を剥く時に匂いを嗅ぐ姿を見せたり、いい匂いと感動している姿を周りの友達に知らせたりする。</p> <p>◎友達と一緒に分け合って食べる楽しさが味わえるように、グループに1個、1.5個などの渡し方をし、グループの友達と自分達で分けさせる。そして、食べながら焼け具合や味などで感じた気持ちを受けとめて楽しく食べる雰囲気を作る。</p>
--------------------------------------	--	---

C【たき火の片付けをする】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<p>・灰を畑や植え込みの中に肥料として入れる</p> <p>・かまどや残った落ち葉を片付ける</p>	<p>○片付けを通して、落ち葉や木の枝を焼いた灰が、植木や野菜の栄養に使えることを感じる⑫</p> <p>○かまどの片付け（1個ずつ丁寧に運ぶ）で、どうすると危なくなるかを聞いたり考えたりし、危なくないようにしようとする⑦</p>	<p>* 必要な道具を取りに行けるように、使いそうな砂場のバケツやスコップなどをいつもの場所に置いておく。</p> <p>◎灰が木や野菜の栄養になることを感じられるように、栄養になることを知らせ、栄養をあげたいと考えて灰を撒く子どもの気持ちを受けとめ、考えていることを他の子どもにも知らせる。</p> <p>◎野菜が大きくなる、ツツジの花がきれいにたくさん咲くなどの期待をもって灰を撒けるように、自分達のしたことがどうなっていくのかを具体的に言葉にして伝えていく。</p> <p>◎かまどの片付けでレンガを丁寧に運べるように、準備と同様に、たくさん持っていて足の上に落としたり、こけて手をはさんだりすると骨が折れるぐらい危険であることを伝え、1個ずつ運んでいるかよく見ておき、危なくないように運んでいる子どもを知らせたりほめたりする。</p>